

2025 年 8 月 10 日（日）第二礼拝「カインとアベル」創世記 4 章 1～15 節

アダムとエバがサタンの誘惑に落ちて墮落した時、神様はアダムに罪からの救いを約束してくださいました。それを信じてアダムは生贄を捧げ、その生贄の皮を彼の腰(恥)の部分に覆いました。これが礼拝です。

第一番目、カインとアベルの生贄です。主へのささげ物として、カインは地の作物から、アベルは羊の初子の中から最上のものを持って来ました。このささげ物が「礼拝」です。礼拝とは、生贄に自分の罪を告白し、生贄が自分の代わりに死ぬこと、それにより罪が赦され、神様に受け入れられることです。人は罪を犯したため、神様との関係が断たれ、霊的に死ぬ者となりましたが、生贄(礼拝)を通して罪が赦され、神様との交わりが回復しました。罪が赦された私たちは、神様に心からの感謝と賛美を捧げ、主への愛を表します。これがアベルのささげ物です。しかし、カインのささげ物は、自分の良さや行いを主張します。週に二度の断食、ボランティア、宗教活動など、どんなに良い行いであっても、自分の罪を贖うことはできません。アベルは自分の罪を告白し、その生贄が自分のために死ぬことで罪が赦されることを信じました。神様はこのアベルのささげ物に目を留められました。(ヘブル 11:4)

第二番目、憤るカインです。カインは、自分のささげ物(自分の義)が神様に受け入れられなかったことで顔を地に伏せ、「神様は間違っている」と憤りました。神様は「…あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」と言われました。獅子が獲物を狙って伏せているように、罪がカインを狙って待ち伏せていましたが、カインは神様の忠告を受け入れず、アベルを殺してしまいました。これが人類最初の殺人です。罪の欲を抑えるために、いばらの冠をかぶり、両手両足に血を流されたイエス様が私たちの戸口に立っておられます。私たちがイエス様を愛し、聖霊様に満たされる時、罪の欲を抑えることができ、守られるのです。

第三番目、アベルの死とカインのしるしです。アベルが殺されることを神様が許されたのは、彼の死によりカインが悔い改めることを願われたからです。私たちの代わりに十字架で苦しみを受けてくださったイエス様を見る時、私たちは自分の罪を悔い改めます。神様はカインに悔い改める機会を与えてくださいましたが、カインは受け入れませんでした。アベルの血がその土地から叫ぶ以上に、イエス様の血はカインの悔い改めを叫ばれています。「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。」と言って罪責感に苦しむカインに、神様はしるし(murderer:殺人者)をつけてくださいました。パウロは罪人のかしらだと言い、恵みにより救われたことを告白しました。多くのアフリカ人の奴隷を売り、殺害したジョンニュートンは、破船の危機に直面した時にイエス様に出逢って救われ、悔い改め、後に聖職者になり、一生奴隷のように裸足で歩きました。そのような彼が『アメージンググレイス』を作詞しました。イエス様を信じ受け入れるなら、イエス様の血によって罪は洗われ、私たちは聖霊の印を押され、新しく造り変えられ、神様の子どもとされるのです。アーメン！